

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	ぐんぐん九条		
○保護者評価実施期間	令和8年2月2日		令和8年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27	(回答者数) 24
○従業者評価実施期間	令和8年2月2日		令和8年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月28日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者様や関係機関との多角的な連携に基づき、日々の様子から導き出した根拠を重視した、精緻な個別支援計画を策定しております。また、多職種協働による一貫性のある支援体制を構築し、質の高いサービス提供に努めています。	保護者様や関係機関との丁寧なヒアリングを通じて情報を密に共有することで、常に「共通の目標」を持てるよう配慮しております。お子様の特性や発達段階を深く分析し、日々の活動の中で「無理なく、かつ確実に達成できる具体的目標」を設定することで、成功体験を積み重ね、自己肯定感を育む工夫をしています。	現状の支援をさらに深化させるため、今後は多職種がより密に協力し合う体制を強化します。具体的には、定期的な面談に加え、ICTツールを活用することで、日常の小さな変化や悩みもリアルタイムに共有・相談できるサポート体制を整えます。
2	土曜日や祝日を最大限に活用し、外出支援・クッキング・地域活動などの多様なイベントを積極的に提供しています。クリスマス会や夏祭りといった季節行事を大切にしているほか、トマトやメロンの水耕栽培にも取り組んでおり、植物の成長を間近に感じる実体験を重視しています。	運営にあたってはリスク管理と安全確保を徹底し、お子様が安心して挑戦できる環境を整えています。活動内では一人ひとりの特性に応じた「役割分担」を行うことで、無理なく達成感を得られるよう工夫しています。	今後はさらに活動の幅を広げ、お子様の創造力や好奇心を引き出す豊かな学びの場を創出します。共同作業やコミュニケーションの機会を増やし、多様な経験から一人ひとりの成長を促進する取り組みを行います。
3	保護者様やお子様のニーズ、および支援計画に基づいた質の高い支援を提供しています。個別学習・SST（ソーシャルスキルトレーニング）・集団活動を軸に、学校生活で即座に活用できる実践的な学びをサポートしています。	お子様のペースに合わせた学習支援に加え、集団活動を通じたルール遵守や協調性の育成をバランスよく取り入れ、一人ひとりの課題に寄り添った多角的な支援を行っています。	今後は小集団の特性をさらに活かし、カードゲーム、運動遊び、制作活動を通じた支援を充実させます。ルールのある遊びや共同作業を通じ、感情・声・行動をコントロールする力や、対人コミュニケーション能力をより実践的に育みます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者様が家庭での関わり方を学ぶ「ペアレント・トレーニング」などの家族支援プログラムについて、より円滑に実施できる体制の構築を検討していく必要があると認識しています。	現在は日々の相談援助が主となっていますが、体系的なプログラムを提供するためには、専門的な知見に基づいた運営の準備を段階的に進めていくことが課題となっています。高い専門性が求められるプログラムであるため、実施にあたって必要な知識やスキルを持つ職員の育成・養成を計画的に進めていく段階にあります。	質の高い家族支援を提供できるよう、外部研修への参加や事業所内での勉強会を通じ、職員のスキルアップを計画的に推進するよう努めています。今後は、個々の状況に応じた柔軟な支援体制を整えるとともに、会社全体として専門性を高めるためのバックアップ体制を強化していく必要があると考えています。
2	保護者同士の交流機会が十分とは言えず、横のつながりを持てる場の提供について、開催に向けた具体的な手法を検討している段階にあります。	参加への意欲やプライバシーへの配慮など、保護者様お一人おひとりのニーズに差があるため、全員が納得できる参加ルールの策定を課題として捉えています。保護者様の多忙なスケジュールや心理的負担を考慮し、開催時期や時間の選定について慎重な検討を重ねていることが要因の一つとなっています。	現在は個別支援に注力していますが、今後は保護者様の孤立を防ぐため、アンケート等を通じて個々の意向を丁寧に把握し、無理のない範囲で段階的に交流の場を設けるよう努めてまいります。また、その際は情報の取り扱いに細心の注意を払い、プライバシーに配慮した安心・安全な運営を徹底します。
3	ご利用児本人への支援が中心となっており、そのご兄弟に焦点を当てたイベントや交流の機会については、今後の検討課題として認識しています。	保護者同伴が必要な活動を想定した場合、保護者様の送迎や付き添いの負担が増える懸念があり、負担を最小限に抑える開催形態を検討する必要があると考えています。また、運営スタッフには、通常の療育とは異なる「きょうだい支援」特有の視点が求められるため、専門スキルの向上や対応マニュアルの整備が今後の課題となっています。	きょうだい間の絆を深められるよう、年齢や発達段階に配慮したプログラムを考案し、共同作業を通じて協力し合える活動の導入を検討していきます。参加者全員が安心して過ごせるよう、時間や心理的負担を軽減し、参加しやすい形式（短時間開催や自由参加型など）を工夫していく必要があると考えています。